

波紋

平成22年02月

No. 296

2010 Feb.

～元気が出る信念会～



2010年1月5日、恒例の「元気が出る信念会」を榮ラグナスイートホテルにて開催させて頂きました。来場者の方々の席は「くじ引き」で決めさせて頂く様にして今年で3回目になります。テーブルに着き、初めて顔をあわせる方式です。11個のテーブル内では、名刺交換や自己紹介をしながらスタンバイです。弊社会長挨拶では、売り上げを伸ばす為には新商品の開発、新規開拓が必要不可欠である。そのためにメーカー様及び取引先様のご協力なしでは成り立たないと今年度の抱負を述べられました。

その後、アキレス(株)豊田部長の乾杯の音頭で今年も和気あいあいと開催しました。恒例となっている(株)クロカワケイティ黒川会長の差し入れの「スズメバチの焼酎付け」・ワイン・シャンパン・徳島名産のスタヂ焼酎の面々が並びました。料理とお酒で会場内も和んできた頃、年末年始の暴飲暴食気味を解消する「ヨガ教室」を高塚奈緒先生の指導でおこないました。会場内は「イテテ・キツイ・・・」との声が響き渡る中、ヨガで身体をほぐしました。これを機に、1年間継続してみたいはいかがでしょうか？

来場者の皆様、遠方より本当に有難うございました。皆様に喜んでいただける「信念会」を来年も開催できます様に、今年1年間、森松マンは切磋琢磨して頑張ってお参りますので何卒、宜しくお願い致します。来場者の方々のご協力、社員全員の協力のお陰で、無事に閉会する事が出来ました。司会者として深く感謝いたします。本当に有難うございました。

幹事 伊東 郁二

「継続すること、

ランニングの場合」

社長 森 直樹



「最近、ランニングがブームのようです。一人でも出来る、時間や場所を選ばない、特別な道具も必要ないということでも始められる趣味でしょう。私自身は牧野マネージャーの誘いがきっかけで、3年前から名古屋周辺のマラソン大会へ出るようになり、それからというものレースへエントリーをまず済ませ、それからそれに向けて追われるよう練習に励む日々が続きます。

学生時代は体育会でしたので、持久力については自信が有りましたが、さすがに引退して10年を過ぎ、今はどうやって練習する為の時間を作るかに頭を悩ます日々です。朝起きるのは辛い、夜はいろいろと誘惑が多く、確かに汗をかく事によって頭もスッキリとし、朝走れば一日の気持ちのよいスタートに、夜走ればその後にはすがすがしい気分が乾杯？と心地よい眠りと、どちらの時間帯でも、それぞれ運動後の気持ちのよい時間は何事にも替えられません。運動がいかに精神的肉体的に健康を保つのに重要か、という事を気づかせてくれます。肝心なのは少しづつでも継続する事。何事もそうですが、心肺機能は継続する事で強くなり、休んでしまえば練習以前の状態に戻ります。良い事とわかっていても、継続出来ずに改善出来ない事は自分のお腹の脂肪対策だけでなく、禁煙、整理整頓、日記を付ける・・・と身の回りにいるいろと有るかと思えます。継続する為の動機付けに、私はとにかくレースにエントリーする事で走る事が継続出来ております。(夏はレースが無いのでお休みしますが)なかなか決めたことが継続出来ない場合、まず動機付けになる仕組みを考えつつ、初めてみるのはどうでしょうか。

「平等こそが民主主義だと思っている。不平等な文部科学省に送る。」

牧野 光昌（企画営業部）



日本では学校には制服があり、給食もある。これは親が楽をする為にそうだったのではなくて、衣食の「差」をなくすためにだそう。近代日本では他の国と比較して「差」を付ける事をあまり良しとしなくなってしまったみたいだ。ちよつとした差が「差別」とか「不平等」を連想してしまうからだろうか。何事も『人と同じ』が良い、とされる風潮が強いような気がする。

走る能力の差をなくすために、徒競走のスタートラインをずらしてしまう運動会。さらには徒競走さえもしない運動会。クラス全員が主役の学芸会の演劇。子供たちはどうやって自分の特異性、多様性を見出す事ができるのだろうか。先生は子供の未来を気にするよりも親の顔色を気にする。子供たちは社会に出て、同じ様に誰かが守ってくれると思ってしまうのだろうか。ここまでエスカレートしても違和感を感じない国民性が不思議だと思ふんだよね。

もし「差」が無い会社があったらどうなるかなあ。全員が同じ事が同じくらい得意な組織だったら、そのリーダーはやり難いだろうねえ。きっと全員が同じ事が同じくらい苦手な組織と変わらないうらいに良い結果が出せないと思うよ。バランスの良い組織は様々な能力を持つ社員をその都度、最適なポジションに配分する。リーダーはその組織の中でプロセスをマネージメントすることで、パフォーマンス効率を高めるんだ。けど同じレベルの集合体であれば「何で俺様がこんな事をしなきゃあ・・・」ってな事を言うやつがきつと出る。それだけで、もうその組織はおしまいなんだ。だから「差」が「個性」が必要なんだ。能力、性格、人格、あらゆる差を前向きに認めて、それを熟知し全体の均衡をとることが出来た時に、本当にパフォーマンスの高い組織が作れるんだよね。

水でも空気でも「差」が無いところに流れは無い。「差」は違いであって、価値ではないんだ。そういうふうを受け取れば、「差」はマネージメントの源泉になる。「差」を知り、「差」を利用する事こそが、儲かる経営の原点だと思うよ。ちなみに「0と1」も差だよ。有と無だよ。生と死でもあるんだよ。この「差」の大きさを理解したらすごいパワーだよ。今回は奥が深いねえ。このまま書き続けると宗教になっちゃうから、もうやめましよう。

「里帰り」

吉岡孝記（営業部）



正月休みに実家に帰郷しました。いつもどおり決まったところで渋滞にはまり休憩しながら約6時間掛けて帰りました。年末は高速料金の割引がなかった影響か、たいした渋滞ではなく、帰りの方が高速料金が1000円になるため渋滞を覚悟しましたが特に混む事もなく助かりました。実家に帰っても特にやることもなく、暇を持て余し久しぶりに近所をぶらりと散歩に出かけました。私の実家は港町で昔はフェリー乗り場が近くにあり帰郷するときはフェリーで帰ることがほとんどでした。橋ができフェリーは廃止になりみやげ物屋など、商店が姿を消しました。地元で昔銀座通りと呼ばれていた商店街もシャッター街と化し更地ばかりになり繊維工場も閉鎖、特にこれと言った産業もなく過疎化が進んでいるなど感じるばかり、なんか寂しい気持ちになります。ですがまだ、営業していると個人商店で企業でも倒産する昨今、個人にしても企業にしてもいろんな環境変化の中、長く続ける事の難しさを実感しました。頑張れとつぶやきながら歩きました。次回帰る時まで残っているかな！



読 後 感

自動車新世紀・勝者の条件 —「石油」から「電気」への大転換—

日本経済新聞社 編

今、自動車業界が大きく変わろうとしている。1908年、世界初の量産ガソリン車であるT型フォードの登場で20世紀は「ガソリン車の世紀」となりましたが、それから100年後の現在、地球環境問題への危機感と技術革新が「ガソリンの世紀」に終止符を打ち、次の100年は「電気の世紀」だとばかりに、世界各国の自動車メーカーは競うように技術革新に取り組んでいるようであるが、走行中にCO₂を出さず、「究極のエコカーの一つ」とされる電気自動車は主に電池とモーターで駆動し、構造が比較的シンプルで参入障壁が低いため、電池ベンチャーなど多様な業種も進出を図っているようである。自動車メーカーだけではなく、素材・部品メーカー、電機・IT企業、住宅、電力業界、販売店などの新規参入や倒産など広範に及ぶ影響も書かれていて、今の自動車業界を取り巻く環境がよくわかりました。

岩間 正美（製造部）

「名古屋めし」

大和田 夕美（企画営業部）



最近、テレビでもご当地グルメが、紹介されています。
私は、味噌煮込みうどんを食べると、名古屋人で良かったと思ってしまう。名古屋の味噌煮込みうどんは、一人前用の小さな鍋でぐつぐつと煮立った中に固めのうどんが入って出てきます。土鍋のふたには空気穴がなく、このふたを小皿代わりにしてうどんと、汁をふたによそって冷ましながら食べます。他には、味噌カツ・手羽先・ひつまぶし・きしめん・味噌おでん・天むすが、有名でしょうか？でもまだまだ、コメダ珈琲のシロノワール・スガキヤのラーメン・台湾ラーメン・あんかけスパ、麺類が多いかも・・・などがあります。名古屋の喫茶店はモーニングサービスがあり、なかでもコメダ珈琲はとても混んでいます。朝8:00から満席です。これは、コーヒーの値段（¥380ぐらい）でトーストと、ゆで卵がサービスで付けてくるからです。名古屋に来たら一度食べてみてください。それと、「エビフライ」テレビのご当地グルメで良く出てきていますが、そんなに食べないですよ。「エビふりや〜」とも言っていないと思うし・・・。名古屋で「エビふりや〜」ときれいに発音できるのは、河村市長だと思います。



2月の予定

- 6日(土) 第一土曜日休み
- 8日(月) 5S会議 17時40分～
- 11日(木) 建国記念日
- 13日(土) 第二土曜日休み
- 15日(月) 村田恒夫さん誕生日
- 19日(金) 牧野光昌さん誕生日
- 20日(土) 5S活動日 13時～16時30分
- 24日(水) 光田昭男さん誕生日
- 26日(金) 生産会議 12時～13時
- CS向上会議 13時10分～14時
- 経営会議 14時30分～15時30分
- 27日(土) 第四土曜日休み
- 28日(日) 藤木方子さん誕生日



「編集長交代の挨拶」

第十二代目



今号より「波紋」編集長を交代する事になりました。

3年間、編集長を続けてきた中で、通常業務では出来ない、いろいろな経験をすることが出来、勉強させて頂きました。昨年からは「波紋」が紙面からホームページへの掲載となり、やる事全てが初めてで、自分でイメージしていた物と実際に出来た物とは違いがあり、戸惑いも多々ありましたが、今では良い経験をさせて頂いたと思っております。この経験を、これから他の面で活かす事が出来れば良いなと思えました。

小坂 美香(営業部)

第十三代目

二〇一〇年「第13代目波紋編集長」を担当させて頂く小原です。昨年より編集員として微力ながらも原稿の編集に携わらせて頂きました。

今年には編集長として小坂さんよりバトンを渡してもらおう事になり、たいへん光榮に思っています。皆様のご期待に添えるよう精一杯努めさせて頂きたいと思っております。宜しくお願い致します。

小原 龍一(営業部)

「引越し準備」

松井 宣和(製造部)



昨年末に、豊川市に住まいがある両親が実家の名古屋に引越しが決まり、急遽正月休みを使い掃除に追われる事になる今年期休暇なので休みの前半に大掃除をする決意する。まずは、天候が良かったので自家用車の洗車から庭からホースを用意するが、水道の蛇口が枯れ葉でいっぱい、庭を見渡すと自由に伸びきった草や木や枯れ葉で、どこからか飛んできたゴミくずや崩れかかった植木鉢群、ベランダも掃かないと、洗車と庭掃除で初日終了。昨日できなかった屋内掃除に取り掛かる。雑巾を探すのがストックがない、タンスの中から古着をチョイスして雑巾代わりにしようと思ったら、あるわあるわ古着の数々急遽タンスの整理整頓する。洗面所では日常使わない物の仕分け(レジヤ用品・その他)物置に荷物を運ぶが、中はガラカタでいっぱいここでも整理整頓する。ようやく部屋の掃除に取りかかれて気合を入れなおして掃除に励みました。近年、正月を迎えるのは豊川が多く、向こうに行っても引越しの段取りでまた掃除かな。

